

動物園に来て、感じてほしいこと

緑政局管理課動物園担当

小野 香織

なく動物園である。しかも一市が三つの動物園を有するといふ、全国的にもまれな特色も持ち合わせているのが横浜市である。このため私の所属する、各園との調整や動物園に関する企画・調査を主な業務とする動物園担当なる部署も存在するのである。

都市生活においても、動物と接する機会は、つくろろう・見つけようとするはいくらでもあるのではないだろうか。いちばん身近なのはやはりペットだろう。飼っている人たちにとっては今やブームを超えて、家族の一員という認識が定着しつつあり、ペットの飼育ができるマンションもあたりまえになってきている。小動物の飼育を取り入れる学校も増えているようであり、子どもたちが生き物の命の大切さを学ぶよい機会だといえる。

業務内容を簡単に言ってしまうと、横浜市の動物園をより良いものにしていくということに尽きる。と一口に言っても、三園あれば三様に個性があり、それぞれの魅力を引き出していくのはなかなか至難の業である。動物園にかかわりながら、いわば一歩離れたところから動物園を見ている立場である以上、様々な問題点も目についたりする。環境破壊が叫ばれて久しく、自然保護の動きが進められる中、その存在意義を問われることさえある動物園。レジャー的要素が大きかったその役割も時代とともに変化し、近年では野生動物の保護を目的とした種の保存や環境教育に主眼が置かれている。現在本市の動物園でも、この「種の保存」と「環境教育」を二本柱として日々努力している。実は、そのような現場の仕事を目指して入庁したのではあるが、思いがけずマネージメント側の仕事をやる機会に恵ま

れ、これまで考えもしなかったことに気づかされるなど毎日が勉強といった感じである。また、役得（職種得？）のおかげか、一時的にはあるが、現場で仕事ができるよう取り計らってもらい、いろいろな角度から動物園を見ることができた。まさに貴重な経験といえるだろう。

そのような中で感じたのは、動物園は見せなければならぬ、ということである。いや、ただ単に動物を見せればよいというのではない。動物園が行っている種の保存（繁殖）、環境教育などを広く市民に知ってもらい、動物園が今何をしているのか、どこへ向かっているのかをアピールする必要があるのではないだろうか。動物を見せるだけではもはや動物園たり得ないということ、周知の事実である。けれどもやはり、多くの人たちに動物園に来てもらいたい。そして、喜んでもらうだけでなく、何かを感じ取ってほしい。野生動物について、あるいは自然環境について、少しでも考えるきっかけになれば、動物園にかかわる者としてこんなふうになれることはない。横浜市の動物園がそんなメッセージをより一層発信していけるよう、少しでも力になりたいと思う。

あとがき

今回の特集「都市生活と動物」のねらいは、「ズーラシアが誕生し、一年半で三百万人の入場者があった。環境教育や種の保存等が加わった動物園の新しいコンセプトが多くの市民に支持されたためと思われる。また、動物は生活していくうえで、欠かせない存在になっていく。食肉は人間の生存にかかわり、都市生活者にとって動物は、精神的に気持ちやわらぐ欠かせない存在にもなっている。：この特集では、人間と動物のかかわりが変化している現在、都市生活と動物の関係のあり方を、行政の現場や地域の実践から考える」とある。

1月のメモに「どんなものにも歴史があり、目の前にあるものだけを見ても分からない。また現在あるものは、その社会の反映だ」と書いている。動物園も食肉もペットにも歴史があり、現在の動物園、食肉やペットの姿は、現在の社会に生きる私たちの行動や意識を表現しているのだと思う。これを変えていく力があるとなれば、それは、今に生きる私たちでしかない。

知らずにいたので歩いてみた。川崎の夢見ヶ崎、東京の多摩・上野、静岡の日本平、神戸の王子、岡山の池田、シンガポール等。目の前の動物しか見えなかった私に、少しずつ他のものが見えだしてきた。動物の状態、施設、職員のかかわり方等がずいぶん違うことも徐々に見えてきた。またペットをめぐる動きも激しい。二十六年ぶりに「動物の愛護及び管理に関する法」改正は、神戸事件がきっかけになつてきたことも知つた。特養ホームや小学校を訪問し、市民が様々な活動を行っていることも初めて見聞きした。横浜市も、区民利用施設では盲導犬、介助犬、聴導犬の出入りが自由になってきた。

「調査季報」は職員が自由に意見を発表し討論する行政研究誌です。「自主研究レポート」への投稿をお待ちしています。

応募される方は、事前に研究の概要をA4紙三枚以内にまとめて企画局政策部調査課までお送りください。

FAX 六六三・四六一三
お問い合わせは、
電話 六七・二〇二九

△加藤▽

動物園は、動物園である。しかも一市が三つの動物園を有するといふ、全国的にもまれな特色も持ち合わせているのが横浜市である。このため私の所属する、各園との調整や動物園に関する企画・調査を主な業務とする動物園担当なる部署も存在するのである。

動物園は、動物園である。しかも一市が三つの動物園を有するといふ、全国的にもまれな特色も持ち合わせているのが横浜市である。このため私の所属する、各園との調整や動物園に関する企画・調査を主な業務とする動物園担当なる部署も存在するのである。

●第142号(二〇〇〇年六月)

特集・21世紀の地域産業政策

- 1 自治体の地域産業政策→成熟した高齢社会の到来を前にして—— 関満博
- 2 座談会・今、横浜に求められる産業政策とは—— 草野恵一・関満博・前田壽
- 3 雇用の拡大に向けた地域産業政策と街づくり—— 宮坂彰志
- 4 新産業創出への取組—— 今富雄一郎
- ①横浜市の新産業育成・支援策—— 今富雄一郎
- ②産学連携の新たな展開と横浜市における連携支援システム—— 中島泰雄
- ③福祉関連(高齢社会対応型)サービス業成長支援事業—— 八巻善賢
- ④SOHOYOKOHAMAインキュベーションセンター—— 齋藤裕美
- 5 地域産業政策と街づくり—— 長谷川政男
- ①京浜臨海部の再編整備と工業制限諸制度の見直し—— 長谷川政男
- ②大型店と商業振興—— 浦崎真仁
- ③横浜の観光振興・三つの「Chance, Challenge & Change」—— 増田文彦
- ④横浜市の企業誘致—— 石田正
- ⑤21世紀の横浜港湾関連産業の振興へ向けて—— 渡邊圭祐
- 自主研究レポート/横浜市の社会資本の生産力効果について→最適水準と効果的投資分野の検証—— 森隆司
- 新鮮力/記憶をつなぐ—— 中尾光夫

●第143号(二〇〇〇年九月)

特集・横浜とワールドカップサッカー

- 1 ワールドカップサッカー大会の横浜開催に向けて—— 金近忠彦
- 2 座談会・コンベンション都市戦略としてのワールドカップサッカー—— 三ッ谷洋子・嶋田昌子・太田 昇・西田善夫・魚谷憲治
- 3 2002ワールドカップ市民の会の活動とねらい—— 宝田良一
- コラム・国際メディアセンター—— 宝田良一
- 4 七万人の歓声が響く—— 横濱国際総合競技場の運営戦略—— 木村重治
- 5 日韓共催の意義→スポーツの歴史と現状から—— 大島裕史
- 6 横浜とスポーツ文化の振興—— 鈴木英夫
- ①市民と生涯スポーツ—— 鈴木英夫
- ②ワールドカップサッカーの開催とスポーツ文化の振興—— 岩倉憲男
- ③サッカー振興における横浜サッカー協会の歴史と役割—— 藤木隆明
- ④次世代のスポーツ環境→イギリスとの比較を通して—— 神林飛雄史
- コラム・横浜育ちのJリーガー—— 永山邦夫・有馬賢二・中村俊輔・大橋正博
- 7 横浜のサッカー文化—— 横濱にサッカー文化の種を播く→横浜F・マリノスのホームタウン活動—— 松本喜美男
- ②横浜FCの誕生と新しいチーム運営—— インタビュー・辻野臣保
- ③横浜と少年サッカー—— 堀内正明
- ④総合スポーツクラブを目指すNPO「かながわクラブ」—— 内田佳彦
- ⑤フットボールクラブ本郷(FC本郷)と栄区サッカー協会—— 吉川 勝
- ⑥座談会・指導者の求めるサッカー環境—— 内田 渉・野地芳生・伊藤陽介・石井和則
- 新鮮力/サッカーの街横浜—— 吉田 剛

●第144号(二〇〇〇年十二月)

特集・成熟する横浜の郊外

- 1 「郊外」というライフスタイルとまちづくり—— 三浦展
- ①郊外型ライフスタイルの形成と展望—— 小池信子
- ②郊外住宅地開発の変遷と展望—— 編集部
- 2 横浜における郊外の成長と成熟—— 編集部
- 3 横浜の郊外市街地形成と交通—— 古木淳・田原秀樹
- ①鉄道整備と郊外部の街づくり—— 古木淳・田原秀樹
- ②東急多摩田園都市における郊外再構築進化論—— 島津良樹・田苗創基
- コラム・横浜郊外文化とトリエンナーレ—— 高安宏昌
- 4 横浜の「郊外」は今→フィールドからの提言レポート—— 寺岡充・宮坂彰志・卯都木隆幸・小田成一郎・階堂智子
- ①青葉区—— 寺岡充・宮坂彰志・卯都木隆幸・小田成一郎・階堂智子
- ②都筑区→港北ニュータウンを中心として—— 松岡文和・米満東一郎・續橋宏昭
- ③港南区—— 山口彰夫・三枝木伸・田村慶子・橋本健
- ④栄区—— 山口彰夫・三枝木伸・田村慶子・橋本健
- 5 郊外の都市づくりのこれからを考える—— 谷口和豊・杉野展子
- ①成熟化する郊外の都市づくりを考えるための見取り図—— 谷口和豊・杉野展子
- ②これからの郊外の交通を考える—— 加川浩・柿崎祐
- ③集合住宅団地の再生と戸建て住宅地の住環境保全—— 菅孝能・新明健・見学洋介・新江英雄・大場重雄
- ④「農」や「緑」と共生するまちづくり—— 江成卓史・内海宏
- ⑤成熟した郊外を支えるコミュニティビジネス—— 吉田洋子・古居みつ子
- 調査&政策研究/ヨコハマをお貸しいたします→横浜フィルムコミッション事業—— 増田文彦
- 新鮮力/新・地球世紀へのキーワード「共に生きる」—— 角田定孝

調査季報

145

2001年3月

編集・発行
横浜市企画局政策部調査課

〒231-0017横浜市中区港町1-1
TEL.045-671-2029
2001年3月30日発行

横浜市広報印刷物登録
第120139号
類別・分類A-BA011
デザイン サウスピア
印刷 株式会社ガリバー

ISSN0387-8899

この印刷物は再生紙（古紙混入率70%）を使用しています